

作曲(和声担当) アドバイザー



菊地 由記子

宇都宮市出身

栃木県立宇都宮女子高等学校卒業

宇都宮大学教育学部(音楽)卒業、同大学院教育学研究科(音楽)修了

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院音楽研究科(作曲)修了

宇都宮大学教育学部非常勤講師、東京藝術大学アトリエゾンセンター教育研究助手、東京藝術大学大学院非常勤講師、東京藝術大学公開講座「おとあそび♪親子教室」講師等をつとめる。

また、江戸川区子ども未来館音楽ゼミ(作曲講座)講師や、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室(宇都宮教室)作曲講座の講師を担当。

近年は、「大人も子どもも聴きたい歌曲」をテーマにした創作に取り組んでいる。

-おもな作曲作品-

- ・おおぞらのころ(詩:八木重吉)
- ・無言歌 -2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのために-
- ・Vocalise -ソプラノ、フルート、チェロのために-
- ・Legare -4本のフルートのために-(サウンドウィズフルートアンサンブル委嘱)
- ・Aria -ピアノのために-(多賀谷祐輔ピアノリサイタル委嘱)
- ・母さんの歌(詩:新美南吉)
- ・貝殻(詩:新美南吉) 他

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師として、和声・創作研究を担当。

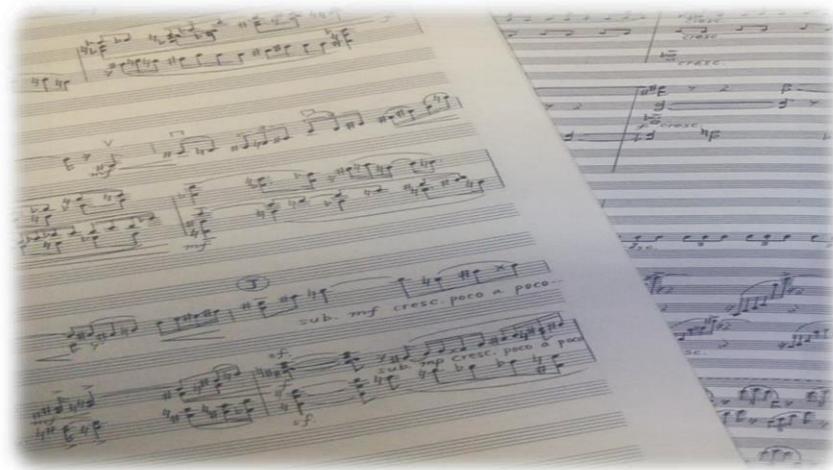
〈作曲家と演奏家〉

-作品が本番の日を迎えるまで-

ホールでの作品演奏について作曲者側から述べてみたいと思います。私の専門は作曲なのですが、曲を書く時はホールの響きを想像しながら書きます。この音の余韻はどれくらいほしい？ 各パートの適切な強弱指定は？ など、ホールでの演奏を想定して、響きのバランスを考えながら楽譜に細かく書き込んでいきます。

書き上げた曲を演奏してもらう際は、事前の練習に立ち会い、こちらの希望を演奏家に伝えます。ホールリハーサル前の練習では、ホールの響きを想定しながら聴き、奏者とアイデアを出し合って楽譜に細かな修正を入れることもあります。

この時間は作曲家も演奏家も真剣勝負の時間です。とても刺激のあるクリエイティブな場であり、そこから生まれる新たなアイデアは、新しい作品へとつながるきっかけにもなります。両者の思いとして共通しているのはただ一つ、よりよい音楽を作り、すばらしい時間をお客様と共有したい、ということです。真剣に、ただひたすらに、よい音楽を生み出そうとする空間はとても清々しいものです。



新曲の楽譜は演奏家の練習に立ち会い、必要箇所を修正し完成となります

-ホールリハーサル、そして本番！-

いざ、ホールリハーサルで音を出してみると、更なる修正が必要になることがあります。時間の許す限りぎりぎりまで理想のかたちを探します。作曲家ができることはここまでです。あとは奏者の方々にすべてを託し、期待と緊張の気持ちをもって本番の演奏を聴きます。

書いた音が実際に演奏される、これは作り手にとってなんとも言えない感動のひとつです。そして、本気で作品について考え全身全霊をかけて演奏してくださる演奏家には、感謝の気持ちでいっぱいになります。

作曲家だけでは、音楽を聴いていただくことはできません。

信頼関係で結ばれた作曲家と演奏家が互いに尊敬し合い、切磋琢磨していく中で、日々、新しい作品が生まれていくのです。

その一瞬の感動を常に忘れずに、作曲家は地道にコツコツと音を書き、演奏家は演奏技術や表現力を磨く、ということに尽きると思います。



作曲作品を自ら演奏することもあります
作品を客観的に見ること、聴くことにつとめます

〈本番演奏の前に〉

本番で演奏するまでには、取り組んでいる作品について深く知る必要があります。ぜひ時間をかけて楽譜を読み込んでください。

演奏家は、音を出す練習だけでなく、ただひたすら楽譜を読み込む、という時間も大事にしています。楽譜に書かれていることはすべて意味があり、それは演奏するための手がかりになるからです。直接作曲家にたずねることができなくても、楽譜から作曲家のメッセージを読み取ることができるからです。ですから、作曲家も、そのような楽譜を書かなければなりません。

楽譜から情報を読み取るためには音楽の基礎知識も必要です。宇都宮

短期大学や附属高校音楽科にもそれらの授業があり、たとえば私が担当する授業、「和声」もその基礎知識の一つです。これは演奏家を目指す人にとって大事な力となります。和声は聴く力を育て、ソロで、室内楽のアンサンブルで、またオーケストラで、あなたが演奏するどんな時でも必ず力を貸してくれるはず。今よりもさらに、深いところで音楽を感じ、よろこびを感じられるはず。演奏技術と理論をともに身につけ、音楽で表現する最高のよろこびを目指しましょう。

〈演奏家として大切なこと〉

演奏家は、聴いてくださる人に音楽を届けるために、常に音楽と向き合い、技術を磨いています。

毎回の演奏に満足することなく、常に上を目指し、舞台ではその成果を存分に発揮し、聴衆とともに音楽を深く感じ、よろこびを分かち合います。音楽を共有する、その一瞬のすばらしい時間のために、毎日練習に明け暮れるのです。日々悩み、ときには苦しいとさえ思う練習も、楽しみながら積み重ねることができると、きっと、より多くのことが見えてくるのではないかと思います。そして、きっとすてきな演奏ができるはず。

自分に自信をもち、音楽のよろこびを伝えるために舞台へ一歩踏み出しましょう。



ピアニスト 多賀谷祐輔さん
ピアノ曲「Prelude」(菊地作曲)を
演奏していただきました
ホールの響きに合わせた音楽作りは
本番直前まで続けられます